

2014年12月24日

交野市長 黒田 実 殿

L A S - E 判定委員会

副委員長 山本 武  
委員 西 寺 雅 也  
委員 山 本 芳 華  
委員 西 脇 居 則

## LAS-E判定結果について

1. 申請自治体

大阪府交野市

2. 申請類型区分

第2ステージ・第2ステップ

3. 合否判定結果

L A S - E 判定委員会において、上記類型区分において規格に準拠しているかどうかを審議した結果、貴自治体の取り組みを次のように判定しました。

合 格

なお、所見につきましては、別紙で通知いたします。

<全般的な事項>

交野市の環境に関する取り組みがL A S-E第2ステージ・第2ステップの規格に準拠しているか、また監査チームが適正に監査を行っているかについて審議した結果、合格と判定しました。

各職場で第2ステージを意識した本業での環境配慮の取り組みや、その先の市民を巻き込むような取り組みも出てきているようです。また、監査では総合ビジョンのキーワードに関連した取り組みを探すなど、監査内容も交野市らしいものになっています。

<前進させるために>

今後さらに取り組みを前進させるために、以下をご検討ください。

① 第2ステージの取り組み

第2ステージで掲げられた取り組み対象項目や独自目標がやや物足りない内容になっています。しかし、交野市の実施計画書を拝見すると、現在取り上げている事業以外にも第2ステージに該当する環境関連事業が多数あります。特に独自目標については、交野の環境を向上させていく上で分かりやすく象徴的な事業を選定しなおしてはいかがでしょうか。

② 取り組みステージ

交野市の環境基本計画には市民・事業者・行政がパートナーシップで取り組むプロジェクトが書かれており、その進捗内容の管理はL A S-Eで行うことになっています。申請基準に合わせて第2ステージの取り組み項目数を無理に増やすよりも、市民活動も盛んに行われているようですから、思い切って第3ステージに取り組みまれたほうがすっきりし矛盾が解消すると思います。

<パートナーシップ組織について>

パートナーシップ組織は、人づくりやネットワークという意味では機能しますが、行政の下請けのようにならないことが大切です。

環境基本計画の推進会議「交野みどりネット」についても、第1段階として行政が市民を巻き込む上では良かったと思います。今後、市民参画や市民協働を進めていくうえで行政との関係性をどのようにするか、いかに自立していくか、今後を見守りたいと思います。

<総合計画について>

交野市の総合計画の構成はユニークで交野モデルとして素晴らしいのですが、職員がどれだけ理解し実践されているかが気になります。「かたのサイズ」も、市民から見ると分かりやすいのですが行政から見ると分かりにくいかもしれません。それを行政の視点で変えると市民にとって分かりにくいものになる可能性があります。総合計画から実施計画へ降りてくるフレームは大切にしつつ、今後の環境政策を展開されることを期待します。